

第三次筑紫野市環境基本計画年次報告書  
(令和5年度版)



筑紫野市環境問題作品コンクール 中学生部門 最優秀賞作品

「 守ろう 地域の川 」

(二日市中学校 3年 浜辺 かな さん)

令和6年10月

筑紫野市 環境経済部 環境課

筑紫野市では、第三次筑紫野市環境基本計画（令和3年3月策定）に基づき、望ましい環境像「みんなでつくる みどり輝くふるさと筑紫野」の実現のために、さまざまな環境保全に向けた取り組みを進めています。

筑紫野市環境基本条例第16条では、環境基本計画の適正な進行管理を図るため、市の環境の現状の把握、環境の保全及び創造に関して講じた施策の成果を評価するために、年次報告書を作成し、これを公表することとしています。本書は、令和5年度の取り組みと成果指標の数値について取りまとめたものです。

## 【目次】

施策体系図	1
施策1. 豊かな自然と生物多様性を保全する	2
施策2. 廃棄物の減量と適正処理を推進する	7
施策3. 地球温暖化対策と気候変動適応策を推進する	9
施策4. 良好な生活環境を形成する	13
【資料編】1	
表1. 地下水水質地点別測定結果	19
表2. 河川水質地点別測定結果	21
【資料編】2	
「筑紫野市役所環境にやさしい行動計画パートV」実績報告書	23

# 施策体系図・各施策の所管課一覧

望ましい環境像「みんなできてる みどり輝くふるさと 筑紫野」	施策	推進分野	事業主管課
	<b>施策1</b> 豊かな自然と生物多様性を保全する	(1)自然とのふれあいの推進	環境課
		(2)多様な生物の保全と外来種対策	環境課
		(3)里地里山の維持保全と環境配慮	環境課 農政課
	<b>施策2</b> 廃棄物の減量と適正処理を推進する	(1)ごみ減量とリサイクルの推進	環境課
		(2)廃棄物の適正な処理	環境課
	<b>施策3</b> 地球温暖化対策と気候変動適応策を推進する	(1)省エネルギー施策の普及・啓発	環境課 商工観光課
		(2)再生可能エネルギーの導入と地域公共交通の利用促進	環境課 企画政策課
		(3)気候変動の影響への対応	環境課 危機管理課 健康推進課
	<b>施策4</b> 良好な生活環境を形成する	(1)住みよい生活環境の確保	環境課 上下水道工務課
		(2)快適な生活環境の実現	環境課
		(3)都市空間の整備	管理保全課 環境課 都市計画課 文化財課

## 施策 1 豊かな自然と生物多様性を保全する

### 推進分野(1) 自然とのふれあいの推進

市内小学校での出前講座や、竜岩自然の家での自然観察会などを主催し、身近な自然とふれあう機会を設けた。出前講座のうち、水生生物に関する講座では子ども達が実際に生きものを観察し、ふれあうことで種の多様性や生きものつながりを学習することができた。市が主催する自然観察会ではその様子を動画撮影し編集して投稿し、講師の解説や生きものの姿、散策した場所等を手軽に見られるよう情報発信を工夫した。



▲自然観察会の様子



▲出前講座の様子（山家小学校）



▲市公式 YouTube つくしチャンネル【おいでよ、環境指標の森！】



アカハライモリ

### 課題と今後の方向性

現在、環境課にて主催している出前講座や自然観察会については小学校や参加者から非常に好評であり、特に小学校については毎年継続して出前講座を希望する学校が増えてきたものの、まだ講座を展開できていない小学校もあることが課題となっている。市内の子ども達に可能な限り平等に環境教育の機会を設けることができるよう、引き続き小学校への出前講座の拡大・充実を目指す。

自然観察会については、安全面や駐車場等の観点から会場が限られてしまうことが課題である。まずは環境指標の森に指定している6か所を候補として、観察会の会場候補地の拡大を検討する。併せて、自然とのふれあいについて興味を持ってもらえるような情報発信の工夫を行っていく。

## 成果指標の達成状況

環境指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和14年度)	実績値	備考
自然観察会、出前講座の内容に満足している市民の割合	未実施	78%	100%	自然観察会・出前講座でアンケートを行い取得した数値
まちづくりアンケートにて、次①②③の項目に満足していると回答した市民の割合				
①森林とのふれあい	35.9%	41%	37.9%	まちづくりアンケートより (回答数1,451)
②川や水辺とのふれあい	22.1%	28%	21.1%	
③野鳥や昆虫とのふれあい	24.0%	30%	24.9%	
取組指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	実績値	備考
市内の自然に関する広報、SNS等での啓発回数	2回	3回	6回	
自然観察会、出前講座の参加者数	67人	90人	285人	※注2 参照
人材育成のための講座開催数	0回	2回	0回	

※注1 環境指標の森とは筑紫野市の生物多様性を保全する上で地域生態系の要となる場所で、市内6地区（天拝の森、平等寺彩りの森、宝満川上中流域、筑紫歴史の森、山家宝満宮の森、宮地岳）を選定している。

※注2 内訳

		回数	人数
自然観察会		1回	16人
コミュニティセンター主催の野鳥観察会		2回	20人
出前講座	山家小学校（4年生）	1回	20人
	山口小学校（4年生）	1回	51人
	吉木小学校（4年生）	1回	49人
	二日市小学校（6年生）	1回	129人

（基準値及び目標値設定の詳細については、第三次筑紫野市環境基本計画【P.20 および P.70】を参照）

## 推進分野(2) 多様な生物の保全と外来種対策

生物多様性の認知度を向上させるため、自然観察会や他の環境課主催講座、出前講座などを通じて、生物多様性に興味をもつきっかけとなるような講話を行った。特に出前講座では、県の外来生物啓発にかかると事業を活用し、SDGs、生物多様性やワンヘルスのテーマにもふれながら、外来種や野生生物との付き合い方について映像等を用いて講座を実施。

そのほか、アライグマに起因する生活被害で困っている市民に小型箱わなを貸与し駆除を行った。

## 課題と今後の方向性

生物多様性の認知度を向上させることは、希少生物の保全や、外来生物の防除（※）につながっていくと考える。今後も引き続き、環境課主催講座や出前講座などで啓発を継続していく。

また、アライグマの生息域は広く、市だけでは防除するのが困難であることから、令和5年度は県のアライグマ防除計画に参加した。人材育成や罠の貸し出し等、県と連携しながら実施していく。  
※防除とは捕獲、採取、殺処分、被害防止措置の実施等を意味する専門用語。(環境省「日本の外来種対策」より一部引用)

## 成果指標の達成状況

環境指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和14年度)	実績値	備考
まちづくりアンケートにて、「生物多様性」という言葉を知っていると回答した市民の割合	25%	28%	29.2%	まちづくりアンケートより (回答数1,451)
「環境指標の森」の指標種の発見割合	実施せず	100%	実施せず	
取組指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	実績値	備考
モニタリングの開催数	8回	8回	10回	※注1 参照
アライグマの駆除数(有害鳥獣として捕獲されたアライグマを含む)	37頭	40頭	93頭	※注2 参照
生物多様性に関する広報、SNS等での啓発数	5回	7回	6回	※注3 参照

※注1 自然観察会、モニタリング、竜岩自然の家でのバードウォッチングの回数

※注2 環境課で防除した数(12頭)+農政課で防除した数(81頭)

※注3 推進分野1「市内の自然に関する広報、SNS等での啓発回数」と重複

(基準値及び目標値設定の詳細については、第三次筑紫野市環境基本計画【P.21 および P.70】を参照)

### 推進分野(3) 里地里山の維持保全と環境配慮

農林業者を支援する取り組みとして「多面的機能支払交付金」、「中山間地域等直接支払交付金」等の交付金や「福岡県森林環境税」などを活用し支援を行った。

有害鳥獣による被害を防止するために、農業者に対して電気柵の設置費用の助成や、捕獲に必要な機材（箱わな）や止め刺し資材などの整備をし、捕獲活動を支援した。

### 課題と今後の方向性

自然環境に対する満足度は、自然とのふれあいによって向上する余地があると考えられる。自然とふれあう機会を提供できるよう、自然観察会や SNS での啓発を引き続き取り組みたい。農業者への支援については引き続き、補助金の活用や国・県の施策を見極めながら支援を行っていく。

また、集落内の農業者の高齢化、林業経営者の減少が進んでおり、後継者や担い手の育成が課題であるため、農業次世代人材投資事業を活用し、新規就農者の数を増やしていく。

イノシシなどの繁殖力が強く用心深い有害鳥獣による被害の抑制は、捕獲だけでは難しいため、農林業者への電気柵の設置費用の助成など、継続的な取り組みを今後も続けていく。

また、新たなハンターがいらない中での捕獲体制は高齢化により先細りとなるため、地域で鳥獣被害対策を進める必要がある。

### 成果指標の達成状況

環境指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和 14 年度)	実績値	備考
まちづくりアンケートにて、「市内の自然環境」に満足していると回答した市民の割合	48.3%	52%	46.6%	まちづくりアンケートより (回答数 1,451)
取組指標	基準値 (基準年度)	目標値 (目標年度)	実績値	備考
地域によって保全されている農地面積	394.1ha (平成 30 年度)	414.1ha	387.8ha	
農業者を支援する取り組みの内容	農地維持のために、ソフト・ハード両面の補助事業を活用しながら支援を行った。			
新規就農者数	0人 (平成 30 年度)	6人 (令和 2~5 年累計)	2人	

取組指標	基準値 (基準年度)	目標値 (目標年度)	実績値	備考
有害鳥獣による農業被害額	5,752 千円 (平成 30 年度)	4,404 千円 (令和 5 年度)	3,814 千円	下がると良い指標
有害鳥獣の捕獲頭数	737 頭 (令和元年度)	700 頭 (令和 4 年度)	875 頭	
適切に管理されている人工林の割合	49.2% (平成 30 年度)	52.1% (令和 5 年度)	55%	
荒廃森林整備事業の実施面積	20ha (平成 30 年度)	20ha (令和 5 年度)	27.06ha	

(基準値及び目標値設定の詳細については、第三次筑紫野市環境基本計画【P. 21 および P. 70】を参照)

## 施策 2 廃棄物の減量と適正処理を推進する

### 推進分野(1) ごみ減量とリサイクルの推進

### 推進分野(2) 廃棄物の適正な処理

ダンボールコンポスト講座などの市民向けの環境学習会の実施や、市のホームページ、環境課のSNS (Facebook) などによる啓発により、市民・事業者に対し、リサイクル等について関心をもってもらう取り組みを行った。令和5年度は、特に「食品ロス」について市広報へ記事掲載し、買い物前に冷蔵庫の中身をチェックすることや料理は食べきれぬ量だけを作るよう呼びかけ。また、市の指定ごみ袋ラベルに分別方法を掲載し、分別間違いを減らすよう啓発した。ダンボールコンポスト講座については、昨年同様に企業と連携し、ゆめタウン施設内休憩スペースにて実施するなど受講者拡大の取り組みを継続して行った。

小学4年生向けに作成した環境教育副読本に関して、毎年刷新してより興味のある内容、授業で使用しやすい内容になるよう努めている。

廃棄物の適正な処理については、不法投棄が頻発する地域のパトロールと違法に廃棄物を焼却していた者への指導を行った。



#### ▲ダンボールコンポスト講座の様子

企業と連携しゆめタウン施設内休憩スペースにて講座を実施した



(写真左：洗濯機 右：テレビ)

#### ▲不法投棄された粗大ごみ

不法投棄が頻発する地域のパトロールを実施。「不法投棄監視テープ」を巻き警告を行う。

## 課題と今後の方向性

市民や事業所に対する啓発等については、今後も継続して行っていく。ダンボールコンポストは、より多くの人に実践してもらえる方法を検討するとともに、講座受講生が継続してコンポストに取り組んでもらえるようサポートできる体制を整えていく。

家庭ごみでは、リサイクル可能なもの（主に紙ごみ）が可燃物として多く捨てられているため、啓発によりリサイクル率を向上できる余地があると考えられる。「家庭ごみの出し方」パンフレットの配付をはじめ、ごみの分別や紙ごみ等のリサイクルについて今後も継続して啓発を行っていく。

## 成果指標の達成状況

環境指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (目標年度)	実績値	備考
市民 1 人 1 日当たりのごみの排出量	785.57g	773g (令和 5 年度)	736.19g	家庭、事業系の総量で集計
リサイクル率	23.27%	23.30% (令和 5 年度)	22.90%	
まちづくりアンケートにて、「廃棄物やリサイクルの取り組み」に満足していると回答した市民の割合	35.6%	40% (令和 14 年度)	34.5%	まちづくりアンケートより (回答数 1,451)
取組指標	基準値 (基準年度)	目標値 (令和 5 年度)	実績値	備考
ごみ分別に関する出前講座の開催数	3 回 (令和元年度)	4 回	5 回	
環境教育副読本のごみに関するページの活用率	73% (令和元年度)	100%	100%	小学校担任へのアンケートにて取得
ごみ減量、リサイクルに関する啓発内容	ペットボトルに関する特集チラシの作成、ホームページ、広報等での啓発			
分別間違い率	19% (平成 30 年度)	10.5%	15.70%	家庭から収集したごみの総重量に対する、分別誤りのごみの重さ (無作為抽出)
家庭から排出される市民 1 人 1 日当たりのごみの排出量	544.06g (令和元年度)	534g	515.77g	
不法投棄の対応件数	78 件 (平成 30 年度)	78 件 (令和 5 年度)	46 件	
不適正な処理の抑制のための取り組み内容	不法投棄が頻発する地域のパトロールを実施し、不法投棄物に「不法投棄監視テープ」を巻き、不法投棄者への警告			

(基準値及び目標値設定の詳細については、第三次筑紫野市環境基本計画【P.31 および P.71】を参照)

## 施策 3 地球温暖化対策と気候変動適応策を推進する

### 推進分野(1) 省エネルギー施策の普及・啓発

住宅の壁や床、天井等への耐熱材の設置などに対して、住宅改修工事等補助金を交付し、135件の申請があった。

市の行う事務や事業については、「筑紫野市役所 環境にやさしい行動計画」に基づき、環境負荷の低減に努めている。推進体制として、「環境にやさしい行動推進会議」を設置しており、クールビズの呼びかけやデコ活の実践（紙ごみ分別啓発）など、職員の意識向上に努めている。

学校においても、小学4年生向けに作成した環境教育副読本を活用してもらい、環境学習を行っており、子どもたちが学んだ内容を家庭でも共有することで、保護者への啓発につながっている。

### 推進分野(2) 再生可能エネルギーの導入と公共交通の利用促進

再生可能エネルギーの導入促進のため、住宅用エコエネルギー導入促進補助金として「太陽光発電システム」「民生用燃料電池（エネファーム）」「住宅用蓄電池（充電と電気供給が出来る電池）」に対して補助を行っている。令和5年度は38件の申請があり、補助件数の累計は419件となった。

また、環境課主催「ちくしの環境フェア 2023」において省エネルギーや再生可能エネルギーに関するパネル展示やすごろく形式の参加型ゲームを用いて市民に対して啓発を行った。

公共交通については、コミュニティバスつくし号及び御笠自治会バスを運行し交通利便性の向上を図るとともに、コミュニティバスの紹介動画製作・配信や、バスの日（9/20）にあわせて啓発活動を実施することにより利用促進を図った。



▲コミュニティバス（つくし号）

写真提供：企画政策課



▲市公式 YouTube つくしチャンネル

【つくしちゃんがバスに乗ってみた】

### 課題と今後の方向性

住宅用エコエネルギー導入促進補助事業については、今後も再生可能エネルギー設備の需要を踏まえて予算額について検討を継続していく。

公共施設のCO<sub>2</sub>排出量が基準値と比較して増加していることから、現在行っている環境にやさしい行動計画や具体的な取り組み内容の周知、啓発方法の見直しが必要である。市民へ向けた啓発については、より多くの人に見てもらえるように YouTube や環境課 SNS などの活用について充実を図っていく。

## 成果指標の達成状況

環境指標	基準値 (基準年度)	目標値 (目標年度)	実績値	備考
市内全体のCO <sub>2</sub> 排出量	1,362千t-CO <sub>2</sub> (平成25年度)	1,035千t-CO <sub>2</sub> (令和12年度)	368千t-CO <sub>2</sub> (令和3年度)	※注1 参照
公共施設のCO <sub>2</sub> 排出量	6,780t-CO <sub>2</sub> (令和元年度)	6,448t-CO <sub>2</sub> (令和7年度)	4,841t-CO <sub>2</sub> (令和5年度)	※注2 参照
まちづくりアンケートにて、「環境にやさしい生活様式」の取り組み項目数の平均	5.3項目 (令和元年度)	7.4項目 (令和14年度)	6.1項目 (令和5年度)	まちづくりアンケートより (回答数1,451)
取組指標	基準値 (基準年度)	目標値 (令和5年度)	実績値	備考
環境教育副読本の地球温暖化に関するページの活用率	18% (令和元年度)	100%	100%	小学校担任へのアンケートにて取得
二酸化炭素削減のための庁内での取り組み内容	筑紫野市役所環境にやさしい行動計画に基づいた取り組み			
環境に配慮した公用車の導入率	77% (令和元年度)	81%	81.50%	※注3 参照
公共施設の再生可能エネルギー導入状況	104kW (令和元年度)	基準値より増	104kW	※注4 参照
住宅改修工事等補助金の補助件数	85件 (令和元年度)	85件	135件	建築課が実施する補助事業の補助件数
事業者を対象とした省エネルギー講座の開催数	0回 (令和元年度)	2回	0回	
家庭での環境にやさしい行動を推進するための取り組み内容	環境課主催のイベントにおいて省エネルギーや再生可能エネルギーに関するパネル展示			
エコエネルギー導入促進補助金の交付件数	335件 (令和元年度)	395件	419件	累計件数
バス利用者数	29,092人 (平成30年度)	35,632人	44,234人	

※注1 国の温室効果ガス削減目標にならない目標値及び目標年度を設定。実績値は環境省「自治体排出量カルテ」より抜粋しており、排出量全体に対して産業部門が15%、運輸部門が34%、業務その他部門が27%、家庭部門が22%、廃棄物分野が2%を占める。特に産業部門の排出量が大きく減少した。

※注2 基準値および目標値は環境にやさしい行動計画パートIVの係数を使用し算出したものであり、パートVの係数を使用して算出した基準値は4,119t-CO<sub>2</sub>であるため基準値からは後退している。

※注3 公用車のうち、低排出ガス基準または低燃費基準、もしくはその両方を達成している車の台数。

※注4 太陽光発電設備を有する施設一覧（小数点以下の端数を省略しているため合計値に差異あり）

施設名	発電容量
生涯学習センター	21kW
二日市小学校	20kW
二日市中学校	20kW

施設名	発電容量
二日市東小学校	20kW
筑紫コミュニティセンター	10kW
本庁舎	10kW

（基準値及び目標値設定の詳細については、第三次筑紫野市環境基本計画【P.36 および P.72】を参照）

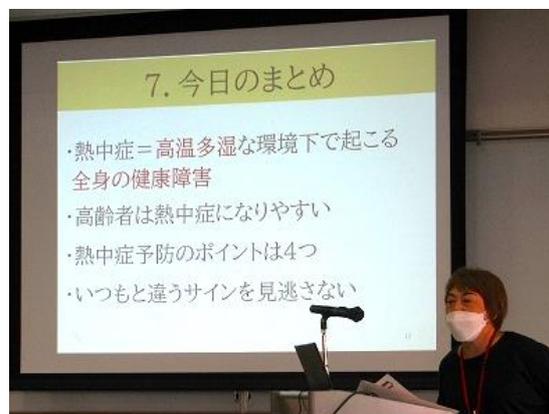
### 推進分野(3) 気候変動の影響への対応

家庭での防災対策や防災に関する基礎知識を盛り込んだハザードマップ（令和3年6月更新）を防災出前講座において活用し、防災の基礎知識の啓発を行った。

その他、健康づくり運動サポーター養成講座において熱中症について理解を深め、サポーターが参加する高齢者等への講話の中でも熱中症予防啓発を実施。気候変動への適応の考え方に関する認知度の向上を図った。また、令和6年度からの熱中症特別警戒アラート開始を踏まえてクーリングシェルターにかかる検討を行った。



▲市職員による防災出前講座の様子  
写真提供：危機管理課



▲健康づくり運動サポーター養成講座内で学習  
写真提供：健康推進課

### 課題と今後の方向性

気候変動への適応の考え方に関する認知度のさらなる向上のため、引き続き出前講座などを開催する。併せて、熱中症警戒アラートの周知を図り、クーリングシェルターの活用を促すため、ホームページやSNS、YouTubeなどでの啓発を検討していく。

また「気候に応じた適切な冷暖房の使用」に努めていると回答した市民の割合をさらに増やしていくために、冷暖房を頻繁に使用する時期などにSNS等を利用し啓発を行っていきたい。

## 成果指標の達成状況

環境指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和14年度)	実績値	備考
まちづくりアンケートにて、「家庭で行っている防災対策」の項目数の平均	2.7項目	4項目	3項目	まちづくりアンケートより (回答数1,592)
まちづくりアンケートにて、「環境にやさしい行動」のうち、「気候に応じた適切な冷暖房の使用」に努めていると回答した市民の割合	実施せず	54%	73.2%	
取組指標	基準値 (基準年度)	目標値 (令和5年度)	実績値	備考
防災訓練および学習会を実施した自主防災組織の割合	85.4% (平成30年度)	91.5%	65%	
気候変動に関する広報、SNS等での啓発回数	0回 (令和元年度)	2回	0回	
熱中症予防啓発数	82回 (令和元年度)	100回	41回	
防災に関する出前講座の開催数	27回 (令和元年度)	27回	26回	危機管理課が実施した出前講座の開催数

(基準値及び目標値設定の詳細については、第三次筑紫野市環境基本計画【P.37 および P.72】を参照)

## 施策 4 良好な生活環境を形成する

### 推進分野(1) 住みよい生活環境の確保

公共用水域の7河川10箇所にて年4回、地下水5箇所にて年1回、桜谷ため池にて年1回水質調査を行った。水質については、概ね環境基準を達成している状況であった。

自動車騒音常時監視業務について、1路線1区間の騒音測定及び面的評価を行い、こちらについても概ね環境基準を達成している状況である。

また、福岡県の大気環境測定車による大気環境調査を針摺地区において9月9日から22日まで実施した。

水洗化率、下水道普及率向上のため、筑紫地区を中心に公共下水道の面的整備を実施した。

### 課題と今後の方向性

水質調査、自動車騒音常時監視業務については継続して監視を行っていきたい。なお、水質調査に関しては、大腸菌群数について過去に基準を超過したことがあったことから今後も結果を注視していく。

下水道本管布設後30年以上経過しており、今後の維持管理・更新等に要する費用をいかに縮減、平準化していくかが課題となっている。住みよい生活環境の確保に寄与するため、公共下水道の未普及区域については、下水道整備の促進に努めるとともに、適切な維持管理等を実施していく。

### 成果指標の達成状況

環境指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和14年度)	実績値	備考
光化学オキシダント警報および注意報の発令状況	発令なし	発令なし	発令なし	
まちづくりアンケートにて、次の①②③の項目に満足していると回答した市民の割合				
①居住地区の空気のさわやかさ	41.1%	45%	45.0%	まちづくりアンケートより (回答数1,451)
②居住地区周辺の静けさ	42.2%	46%	44.4%	
③河川の水のきれいさ	30.0%	35%	27.8%	

取組指標	基準値 (基準年度)	目標値 (令和5年度)	実績値	備考
公共用水域水質調査の測定値	環境基準値内 (令和元年度)	環境基準値内	基準値超過あり	基準超過の有無 ※注1
自動車道路騒音調査の測定値	環境基準値内 (令和元年度)	環境基準値内	基準内	基準超過の有無 ※注2
下水道普及率	97.8% (平成30年度)	98.3%	97.99%	
水洗化率	98.1% (平成30年度)	98.6%	98.51%	

※注1 資料編 表1及び表2を参照。

【測定地点】



※注2

筑紫野インター線（起点：筑紫野市武蔵 終点：筑紫野市武蔵3丁目3番）、福岡筑紫野線（起点：筑紫野市杉塚3丁目3番 終点：筑紫野市武蔵3丁目3番）で実施。

対象区間の道路に面する地域に立地している住居等（633戸）を対象に自動車騒音の常時監視として面的評価を実施。

昼夜ともに基準値以下の戸数は633戸であり、達成率は100%であった。

（基準値及び目標値設定の詳細については、第三次筑紫野市環境基本計画【P.44 および P.73】を参照）

## 推進分野(2) 快適な生活環境の実現

近年、公害の分類に当てはまらない相談として野焼き、空き地に繁茂する雑草、生活騒音、地域の猫に関する苦情等の件数が増加しており、容易に解決できないケースが見られるようになってきた。

特にペット、小動物に関する相談件数については野良猫による糞尿や鳴き声に関する相談が増えている。相談の多くは、無責任な餌やりにより野良猫が増加していることが原因となっている。こうした内容の相談には、状況に応じて原因者に対しての指導や配慮の依頼を行っている。

一方で、この問題を地域課題としてとらえて解決を検討する住民からの相談も寄せられており、協力の得られる地域においては「地域猫活動」を推奨している。

「ごみゼロ運動」について、取り組みやすい環境づくりのため、広報等で「ごみゼロ運動」の日程の周知や地域清掃用の指定袋の配布、「ごみゼロ運動」で発生したごみの回収を収集業者へ依頼を行うなど、地域の清掃活動をサポートした。



### ▲ 地域猫活動の様子

活動地域内で、決められた時間や場所での餌やり、片づけ、トイレの設置を行うことで被害を軽減する。



### ◀ 空き地に繁茂した雑草の様子

害虫の発生や犯罪、火災の原因になる恐れなどがあるため、土地所有者に対しての指導や配慮の依頼を行っている。

## 課題と今後の方向性

公害に当てはまらない生活環境問題は、根本的な解決を目指すことと併せて、ケースに応じた対応を継続していくことで相談件数を減らしていく。

生活環境に関する啓発については、市広報、SNS など市民の身近な媒体を活用して情報発信や啓発を進めていく。

## 成果指標の達成状況

環境指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和14年度)	実績値	備考
まちづくりアンケートにて、次の①②の項目に「そう思う」と回答した市民の割合 (回答数 1,451)				
①周辺の環境が清潔で衛生的である	88.0%	89%	87.4%	そう思うと回答した割合
②市民の環境に関するモラル	19.0%	25%	19.8%	満足していると回答した割合
取組指標	基準値 (基準年度)	目標値 (令和5年度)	実績値	備考
ペット、小動物に関する相談件数	67件 (平成30年度)	50件	75件	※野良猫を含む。 野生動物は除く
近隣の生活騒音、振動、悪臭に関する相談件数	146件 (平成30年度)	131件	44件	
所有地の管理に関する相談件数	59件 (平成30年度)	59件	64件	
生活環境に関する広報、SNSでの啓発回数	14回 (令和元年度)	14回	8回	
ごみゼロ運動の参加者数	34,378人 (令和元年度)	34,378人	32,427人	

(基準値及び目標値設定の詳細については、第三次筑紫野市環境基本計画【P.45 および P.73】を参照)

### 推進分野(3) 都市空間の整備

快適な都市空間を整備するために、第四次筑紫野市国土利用計画、第二次筑紫野市都市計画マスタープラン、第二次筑紫野市市街化調整区域整備保全構想に基づいた土地利用を推進した。

公園の樹木や街路樹に関する相談は、年間7回の道路パトロールと、地元区長等の要望や住民からの通報に対応することで、良好な都市景観の形成に努めた。

地域の歴史、文化財を活かした魅力あるまちづくりのため、市内の未指定文化財の調査を行った。

## 課題と今後の方向性

土地利用については、引き続き土地利用関連法令及び計画の適正な運用に努め、農用地区域内の農地及びその周辺地域の優良農地の保全を行い、良好な農業環境の維持・増進を図る。

また、市域東西に広がる豊かな自然緑地は保全するとともに、人々に安らぎと癒しをもたらす自然景観に配慮し、登山や自然観察等のレクリエーションゾーンとして有効活用を図る。

道路パトロールを継続し、地元区長等の要望や住民からの連絡に対しは迅速に対応していく。

市内の未指定文化財の調査に取り組んでいるが、多岐にわたる文化財の調査等に時間を要しており、指定件数の増加はあまり進捗していないため、調査を計画的に遂行し、文化財指定を推進するよう取り組みたい。

## 成果指標の達成状況

環境指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和 14 年度)	実績値	備考
まちづくりアンケートにて、次の①②③④の項目に満足していると回答した市民の割合				
①公園の施設や整備	16.7%	22%	15.6%	まちづくりアンケートより (回答数 1,592)
②居住地域の自然環境	32.3%	37%	32.8%	
③周辺地域の自然景観	36.7%	41%	34.2%	
④歴史や伝統に関する街の雰囲気	26.8%	33%	21.5%	
取組指標	基準値 (基準年度)	目標値 (令和 5 年度)	実績値	備考
公園の樹木や街路樹に関する相談件数	69 件 (令和元年度)	50 件	62 件	年度中の相談記録より
開発行為指導件数	31 件 (平成 30 年度)	116 件 (令和 2～5 年度累計)	116 件 (令和 2～5 年度累計)	
市民がふれることのできる史跡数	8 箇所 (平成 30 年度)	10 箇所	8 箇所	

(基準値及び目標値設定の詳細については、第三次筑紫野市環境基本計画【P. 45 および P. 73】を参照)

## 【資料編】

表1 地下水水質地点別測定結果

表2 河川水質地点別測定結果

表1 地下水水質地点別測定結果

※調査年月日 令和6年2月9日

調査項目	環境基準	調査地区				
		①筑紫野太宰府 消防本部	②山神公民館	③中阿志岐 公民館	④山家コミュニ ティセンター	⑤筑紫野消防署 南出張所
カドミウム (mg/L)	0.003 以下	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満
全シアン (mg/L)	検出されないこと	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
鉛 (mg/L)	0.01 以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
六価クロム (mg/L)	0.02 以下	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
ひ素 (mg/L)	0.01 以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
総水銀 (mg/L)	0.0005 以下	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満
アルキル水銀 (mg/L)	検出されないこと	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満
PCB (mg/L)	検出されないこと	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満
ジクロロタン (mg/L)	0.02 以下	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満
四塩化炭素 (mg/L)	0.002 以下	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満
塩化ビニルモノマー (mg/L)	0.002 以下	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満
1,2-ジクロロエタン (mg/L)	0.004 以下	0.0004 未満	0.0004 未満	0.0004 未満	0.0004 未満	0.0004 未満
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	0.1 以下	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	0.04 以下	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満
1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1 以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	0.006 以下	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満
トリクロロエチレン (mg/L)	0.01 以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
テトラクロロエチレン (mg/L)	0.01 以下	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満
1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	0.002 以下	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満
チウラム (mg/L)	0.006 以下	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満
シマジン (mg/L)	0.003 以下	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満
チオベンカルブ (mg/L)	0.02 以下	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満
ベンゼン (mg/L)	0.01 以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
セレン (mg/L)	0.01 以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素 (mg/L)	10 以下	0.07	1.5	3.9	0.41	0.24
ふっ素 (mg/L)	0.8 以下	0.08	0.09	0.08	0.12	0.08
ほう素 (mg/L)	1 以下	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満
1,4-ジオキサン (mg/ L)	0.05 以下	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満

※ 「検出されないこと」とは、各調査項目の測定方法により測定した場合において、その結果が

当該分析方法における正確に定量できる濃度を下回っていることをいう。

## 河川水質測定

◎環境基準類型指定（福岡県知事が指定したもの）

指定水域名 筑後川

名称	範囲	類型	達成期間	摘要
宝満川(1)	原川合流点より上流	A	イ	原川（岩本新橋）
宝満川(2)	原川合流点より下流	B	ロ	桜木川（四反田橋） 宝満川（宝満橋、土島橋、樟橋） 山口川（永岡橋） 山家川（間片橋、若宮橋、小古野橋）

指定水域名 博多湾流入河川

名称	範囲	類型	達成期間	摘要
御笠川 上流	金島井堰から上流	B	イ	鷺田川（橋口橋）

※達成期間の欄の分類

「イ」 直ちに達成

「ロ」 5年以内で可及的速やかに達成

「ハ」 5年を超える期間で可及的速やかに達成

「ニ」 段階的に暫定目標を達成しつつ、環境基準の可及的速やかな達成に努める。

◎環境基準

類型	水素イオン濃度（pH）	生物化学的酸素要求量（BOD）	浮遊物質量（SS）	溶存酸素量（DO）	大腸菌数
A	6.5以上 8.5以下	2mg/L以下	25mg/L以下	7.5mg/L以上	300CFU/ 100ml以下
B	6.5以上 8.5以下	3mg/L以下	25mg/L以下	5mg/L以上	1,000CFU/ 100ml以下

【水素イオン濃度とは】（pH）

水中の水素イオン濃度を指数で表したもので、pH1～14で表す。◆7が中性 ◆7より低い側が酸性 ◆7より高い側がアルカリ性

【生物化学的酸素要求量とは】（BOD）

水の汚れ具合を表す。水の汚れを細菌が食べて分解するのに必要な酸素の量のこと、汚れが多いとそれだけ大きな数字になる。逆に少ないと小さな数字になる。

【浮遊物質量とは】（SS）

水中に浮遊している物質の量のことをいい、数値が大きい程、その水が濁っていることを示す。

【溶存酸素量とは】（DO）

水に溶けている酸素の量のこと。空気中から溶け込むほか、水中植物の光合成によって供給され、水中生物の呼吸や有機物の存在によって消費される。

【大腸菌数とは】

令和4年4月より指標変更。従来指標（大腸菌群数）よりも的確に糞便汚染を捉えることができる。

表2 河川水質地点別測定結果

水素イオン濃度 (pH)

実施月	鷺田川	桜木川	宝満川			原川	山口川	山家川		
	橋口橋	四反田橋	宝満橋	士島橋	樟橋	岩本新橋	永岡橋	間片橋	若宮橋	小古野橋
5月	7.3	7.3	7.5	7.5	7.4	7.	7.6	7.5	7.5	7.4
8月	7.5	7.1	7.6	8.8	9.0	7.1	7.9	7.4	7.6	7.7
11月	7.9	7.8	8.0	7.8	7.8	7.9	8.2	7.9	7.9	8.0
2月	7.6	7.6	—	7.8	7.7	7.7	8.3	7.9	7.9	7.5
平均値	7.575	7.45	7.7	7.975	7.975	7.5	8.0	7.675	7.725	7.65
環境基準	6.5～ 8.5									

生物化学的酸素要求量 (BOD)

(mg/L)

実施月	鷺田川	桜木川	宝満川			原川	山口川	山家川		
	橋口橋	四反田橋	宝満橋	士島橋	樟橋	岩本新橋	永岡橋	間片橋	若宮橋	小古野橋
5月	0.5	0.5 未満								
8月	0.5	0.6	1.2	1.9	3.5	0.5 未満	0.5 未満	0.5	1.2	0.5 未満
11月	0.5 未満	0.5 未満	0.8	1.4	0.6	0.5 未満	0.5 未満	0.9	0.9	0.7
2月	2.9	0.9	—	0.9	0.8	0.5	0.7	1.4	1.1	3.0
75%値	0.5	0.6	1.2	1.4	0.8	0.5 未満	0.5 未満	0.9	1.1	0.7
環境基準	3 以下	3 以下	3 以下	3 以下	3 以下	2 以下	3 以下	3 以下	3 以下	3 以下

※ 環境基準については、BOD75%値。BOD75%値とは年間の BOD 日間平均値の全データを小さいものから順に並べ、 $0.75 \times n$  番目 ( $n$  はデータの数) の値のことで、BOD の環境基準の評価はこの値で行う。(  $0.75 \times n$  が整数でない場合は、端数を切り上げた整数番目の値をとる。)

浮遊物質質量 (SS)

(mg/L)

実施月	鷺田川	桜木川	宝満川			原川	山口川	山家川		
	橋口橋	四反田橋	宝満橋	士島橋	樟橋	岩本新橋	永岡橋	間片橋	若宮橋	小古野橋
5月	2	1 未満	10	2	1	1 未満	3	3	6	6
8月	2	6	3	3	3	1 未満	1	1	1	4
11月	1 未満	3	2	1	1 未満	1 未満	1 未満	1	3	2
2月	1 未満	2	—	1	1	1 未満	2	4	1	1 未満
平均値	1.5	3	5	1.75	1.5	1 未満	1.75	2.25	2.75	3.25
環境基準	25 以下									

溶存酸素量(DO)

(mg/L)

実施月	鷺田川	桜木川	宝満川			原川	山口川	山家川		
	橋口橋	四反田橋	宝満橋	士島橋	樟橋	岩本新橋	永岡橋	間片橋	若宮橋	小古野橋
5月	9.4	9.2	9.0	10	9.2	10	9.6	9.1	9.5	9.1
8月	8.1	7.2	10	14	18	8.4	8.3	12	7.8	8.6
11月	10	10	10	11	10	11	11	9.8	9.6	9.9
2月	11	10	—	9.6	11	12	11	10	11	10
平均値	9.625	9.1	9.6	11.15	12.05	10.35	9.975	10.225	9.475	9.4
環境 基準	5 以上	5 以上	5 以上	5 以上	5 以上	7.5 以上	5 以上	5 以上	5 以上	5 以上

大腸菌数

(CFU/100ml)

実施月	鷺田川	桜木川	宝満川			原川	山口川	山家川		
	橋口橋	四反田橋	宝満橋	士島橋	樟橋	岩本新橋	永岡橋	間片橋	若宮橋	小古野橋
5月	820	630	78	98	80	77	230	270	930	310
8月	450	4,000	99,000	18	8	75	280	25	210	87
11月	490	380	400	57	62	1,100	110	6,800	32,000	160
2月	560	80	—	90	38	58	48	110	560	140
平均値	580	1272	33,159	65.75	47	327	167	1,801	8,425	697
環境 基準	1,000 以下	1,000 以下	1,000 以下	1,000 以下	1,000 以下	300 以下	1,000 以下	1,000 以下	1,000 以下	1,000 以下

※生物化学的酸素要求量(BOD)、溶存酸素量(DO)、大腸菌数の環境基準は、河川の類型によって異なります。

※調査年月日

第1回調査…令和5年5月11日

第2回調査…令和5年8月30日

第3回調査…令和5年11月21日

第4回調査…令和6年2月8日 ※宝満橋は工事の影響で河川が濁っていたため測定せず。

【資料編】2

令和5年度

「筑紫野市役所環境にやさしい行動計画パートV」

実績報告書

STOP!温暖化



※この報告書は、市内公共施設のデータをまとめたものです。

筑紫野市環境推進委員会

## 令和5年度「筑紫野市役所環境にやさしい行動計画パートⅤ」実績報告書

### 筑紫野市役所環境にやさしい行動計画パートⅤ

筑紫野市は、地球温暖化対策を推進するため、市の公共施設で使用するエネルギー使用量等の具体的な削減目標を定めた「筑紫野市役所環境にやさしい行動計画」を平成13年に策定し、実践してきました。

平成13年度から平成17年度までの第1期間を「筑紫野市役所環境にやさしい行動計画パートⅠ」として、平成18年度から平成22年度を「筑紫野市役所環境にやさしい行動計画パートⅡ」、平成23年度から27年度を「筑紫野市役所環境にやさしい行動計画パートⅢ」、平成28年度から令和2年度を「筑紫野市役所環境にやさしい行動計画パートⅣ」として実践しており、令和3年度より、「筑紫野市役所環境にやさしい行動計画パートⅤ」の取り組みを開始しています。「筑紫野市役所環境にやさしい行動計画パートⅤ」では、本市が行う全ての事務及び事業の実施に伴う温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)排出量の削減等を推進するため、エネルギー使用量の削減やグリーン購入の取り組みを進めています。

### 令和5年度の実績と取り組み

市の全施設から排出されたCO<sub>2</sub>総排出量は、4,841 t-CO<sub>2</sub>で、前年度に比べて1%減少しています。

削減のための具体的な取り組みとして、「筑紫野市役所環境にやさしい行動計画パートⅤ」に基づく削減のための取り組み(クールビズの周知と実施、エコドライブの推奨、デコ活の啓発を含めた紙ごみ分別の取組)を、実施しました。

#### ※電気及びガス使用量について

年間では、6～9月、12～3月の電気使用量が多くなっています。また、都市ガスの使用量については、前年度と比べて5%減少しています。特に生涯学習センターの他、カミーリヤでは都市ガス使用量に大きく減少傾向がみられ、新型コロナワクチン接種業務が縮小されたことが主な要因と考えられます。

#### ※公用車の燃料使用量について

公用車のガソリン使用量は前年度比1%減少と、ほぼ横ばいの数値となっています。

#### ※紙の環境配慮型製品使用率について

環境配慮型製品使用率は97.7%で、前年度と同程度を維持しており、目標値である90%を達成しています。引き続き、単価契約品の環境配慮製品購入促進などに取り組み、使用率向上のための啓発と、会議等における資料のペーパーレス化を推進します。

#### ※季節ごとの比較(気温と電気使用量)について

令和元年度を基準年度とし、直近2ヶ年の月ごとの日平均気温(太宰府局)と電気使用量について、本報告書の33ページに載せています。(出典:気象庁ホームページ「過去の気象データ検索」)

※この計画の期間中は、CO<sub>2</sub>排出量の計算に使用する排出係数を原則、令和元年度の数値で固定して削減の評価をしていますが、電気使用量については電力自由化に伴い、電力契約会社の変更があった場合は係数を一部変更し集計しています。(係数は下の表による)

【表】

期間	電力契約会社	使用した排出係数
令和元年4月～令和2年11月	九州電力	0.319 kg-CO <sub>2</sub> /kWh
令和2年12月～令和3年11月	丸紅新電力	0.442 kg-CO <sub>2</sub> /kWh
令和3年12月～	九州電力	0.319 kg-CO <sub>2</sub> /kWh

※排出係数は環境省「電気事業者別排出係数(特定排出者の温室効果ガス排出量算定用)」を参照

## 1. 温室効果ガス(CO2)排出量の削減

※「目標達成」項目の見方 ○:目標値達成 ▲:目標値未達成

目標・・・基準年から**4.9%**削減

	基準年(R1)	前年度(R4)	対象年度(R5)	前年比	基準年比	目標達成
CO2排出量(t-CO2)	4,119	4,894	4,841	-1%	+18%	▲

## 2. 資源及びエネルギー等の削減 ※数値は小数点以下切り捨て

### (1) 電気・燃料の使用量

目標・・・基準年から**6%**削減

	基準年(R1)	前年度(R4)	対象年度(R5)	前年比	基準年比	目標達成
①電気使用量(千kWh)	8,436	9,011	9,126	+1%	+8%	▲

目標・・・基準年から**2%**削減

	基準年(R1)	前年度(R4)	対象年度(R5)	前年比	基準年比	目標達成
②灯油等使用量(ℓ)	2,810	2,750	2,630	-4%	-6%	○
③液化石油ガス(LPG)使用量(kg)	10,051	8,854	9,159	+3%	-9%	○
④都市ガス使用量(千m <sup>3</sup> )	629	830	787	-5%	+25%	▲

### (2) 公用車の燃料使用量

目標・・・基準年から**5%**削減

	基準年(R1)	前年度(R4)	対象年度(R5)	前年比	基準年比	目標達成
①ガソリン使用量(ℓ)	45,067	38,378	37,930	-1%	-16%	○
②軽油使用量(ℓ)	21,209	24,578	25,859	+5%	+22%	▲
③天然ガス使用量(m <sup>3</sup> )	0	0	0	-	-	-

### (3) 水の使用量

目標・・・基準年から使用量**4%**削減

	基準年(R1)	前年度(R4)	対象年度(R5)	前年比	基準年比	目標達成
上水道使用量(千m <sup>3</sup> )	128	114	116	+2%	-9%	○

### (4) 公用車の保有台数

目標・・・公用車に占める環境に配慮した公用車の割合(低公害車等保有割合)を**85%以上**に

	基準年(R1)	前年度(R4)	対象年度(R5)	前年比	基準年比	目標達成
低公害車等保有合計(台数)	81	82	84	+2台	+3台	▲
自動車保有台数(台数)	105	104	103	-1台	-2台	
低公害車等保有割合(%)	77.1%	78.8%	81.6%	-	-	

※調査対象公用車台数については、消防団及び貸借車等の台数は含まない。

### (5) 紙の購入量

目標・・・基準年から購入量**5%以上**削減

	基準年(R1)	前年度(R4)	対象年度(R5)	前年比	基準年比	目標達成
購入量合計(t)	90	92	90	-2%	+0%	▲
環境配慮型製品使用率(%)	91.1%	96.8%	97.7%	+1%	+7%	

# 1. 温室効果ガス(CO2)排出量の削減

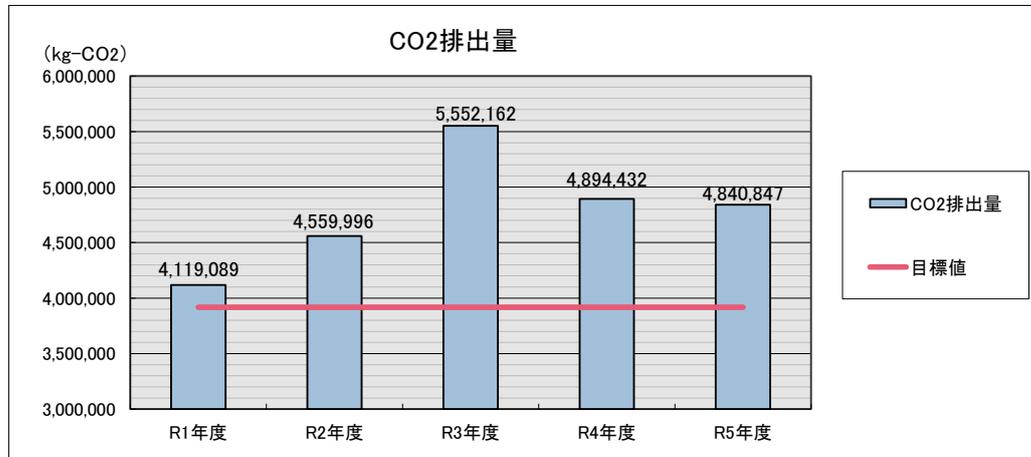
## (1) 温室効果ガス(CO2)排出量

目標・・・令和元年度(基準年度)比で4.9%削減

(単位: kg-CO2)

	令和元年度 (基準年度)	令和4年度	令和5年度	令和4年度との 比較(増減率)	基準年度との 比較(増減率)
CO2排出量	4,119,089	4,894,432	4,840,847	-1.1%	17.5%

※この報告書で使用しているCO2排出係数は、筑紫野市環境にやさしい行動計画パートVの期間は原則一定のものです。  
 ※例外として、電気使用量については電力自由化に伴い電力契約会社の変更があった場合は係数を一部変更し集計しています。

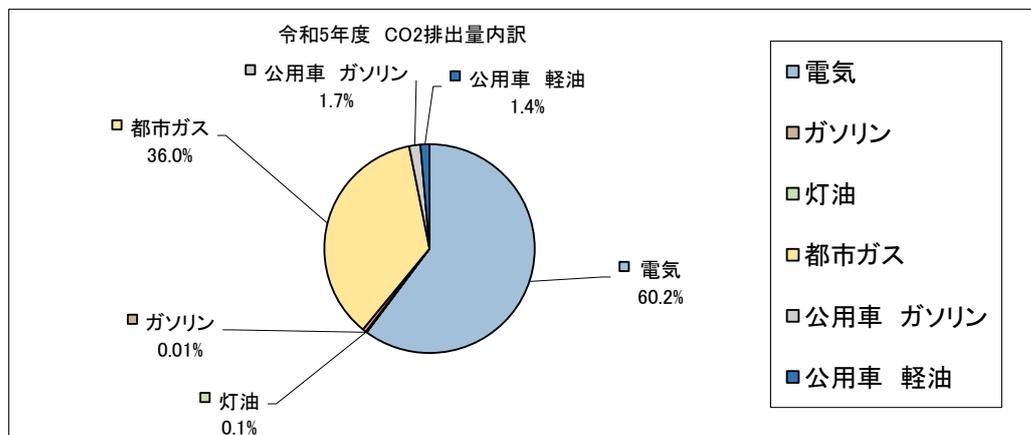


## (2) CO2排出量内訳

※電気使用量については電力自由化に伴い、電力契約会社の変更があった場合は係数を一部変更し集計しています。

(単位: kg-CO2)

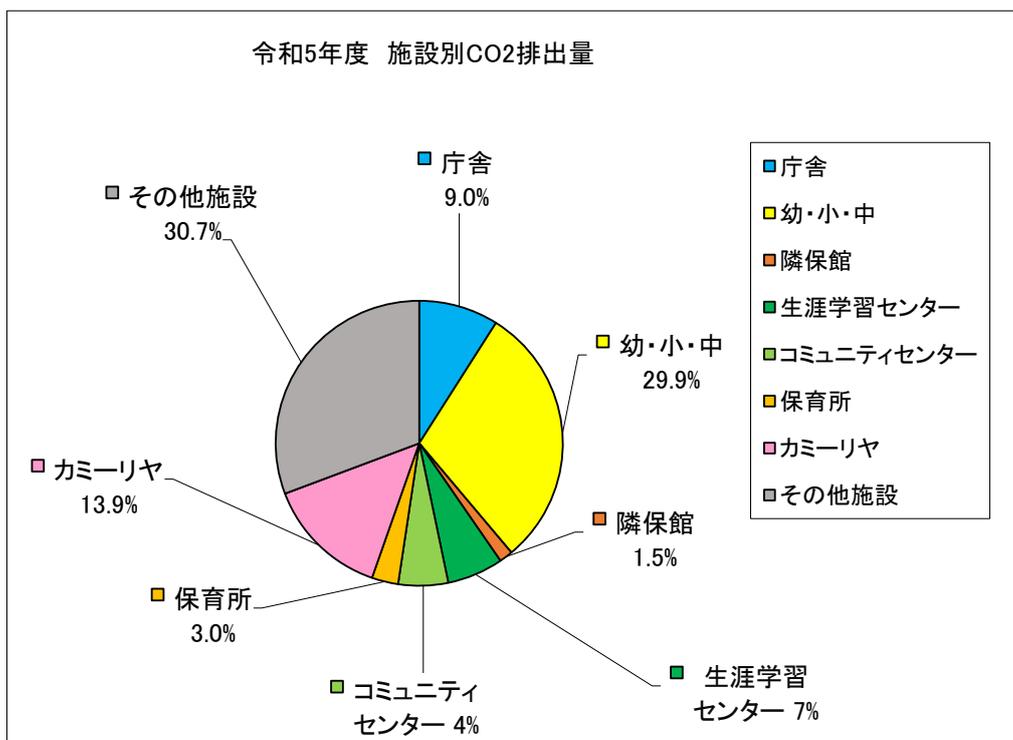
	令和元年度 (基準年度)	令和4年度	令和5年度	令和4年度との 比較(増減率)	基準年度との 比較(増減率)	
電気	2,691,221	2,874,364	2,911,213	1%	8.2%	
灯油等	ガソリン	313	339	663	96%	111.9%
	灯油	6,661	6,484	6,549	1%	-1.7%
	軽油	0	0	0	-	-
	LPG	30,159	26,566	27,480	3%	-8.9%
都市ガス	1,390,736	1,834,231	1,740,229	-5%	25.1%	
公用車	ガソリン	104,555	89,038	83,457	-6%	-20.2%
	軽油	54,719	63,411	66,716	5%	21.9%
	天然ガス	0	0	0	-	-



### (3) 施設別CO2排出量

(単位:kg-CO<sub>2</sub>)

	令和元年度 (基準年度)	R4年度	R5年度	令和4年度との 比較(増減率)	基準年度との 比較(増減率)
市庁舎	446,700	532,741	434,605	-18.4%	-2.7%
幼・小・中	1,009,067	1,745,322	1,448,745	-17.0%	43.6%
隣保館	88,289	79,250	74,030	-6.6%	-16.2%
生涯学習センター	298,057	349,371	305,686	-12.5%	2.6%
コミュニティセンター	253,538	317,785	271,541	-14.6%	7.1%
保育所	134,128	171,887	144,328	-16.0%	7.6%
カミーリヤ	607,605	731,864	673,548	-8.0%	10.9%
その他施設	1,270,565	966,212	1,488,366	-	-



## 2. 資源及びエネルギー等の削減

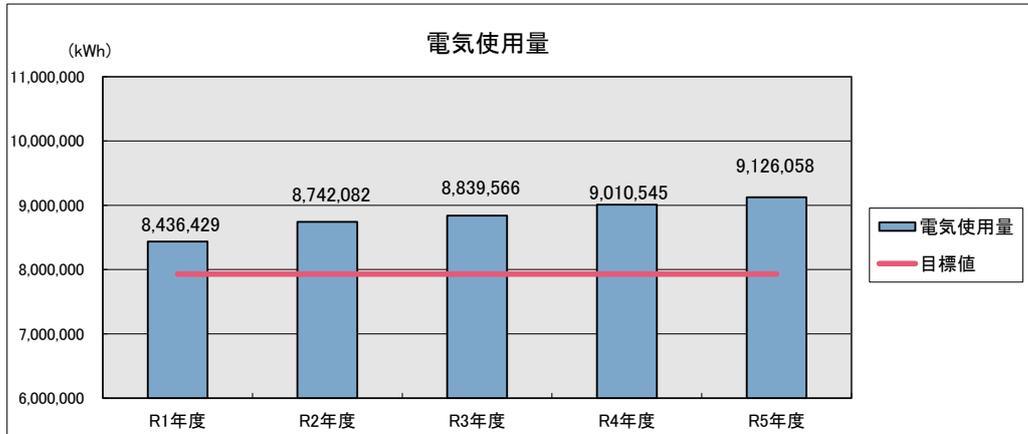
### (1) 電気・燃料の使用量

#### ① 電気使用量

目標・・・基準年から6%削減

(単位:kWh)

	令和元年度 (基準年度)	R4年度	R5年度	令和4年度との 比較(増減率)	基準年度との 比較(増減率)
電気使用量(kWh)	8,436,429	9,010,545	9,126,058	1.3%	8.2%



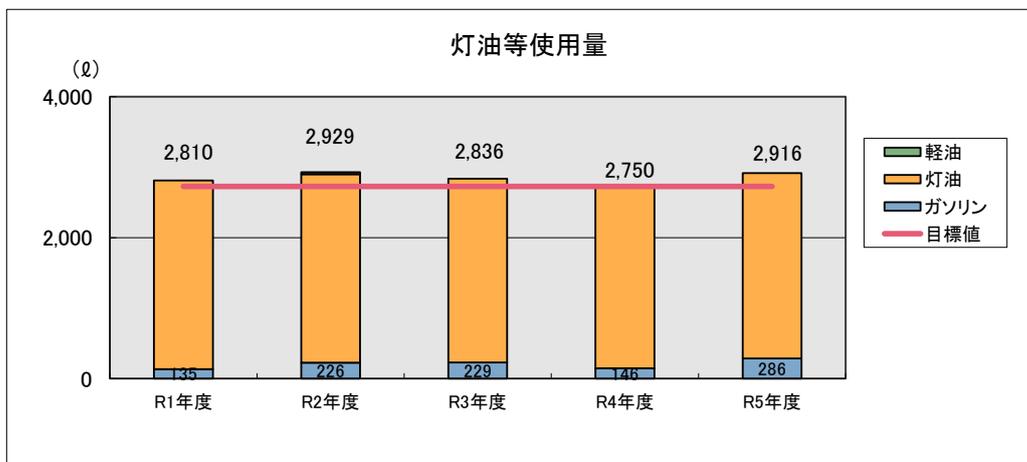
#### ② 灯油等使用量

目標・・・基準年から2%削減

(単位:ℓ)

	令和元年度 (基準年度)	R4年度	R5年度	令和4年度との 比較(増減率)	基準年度との 比較(増減率)
灯油等使用量(ℓ)	2,810	2,750	2,916	6.0%	3.8%

灯油等とは、ガソリン、灯油、軽油、A重油のことを指す。

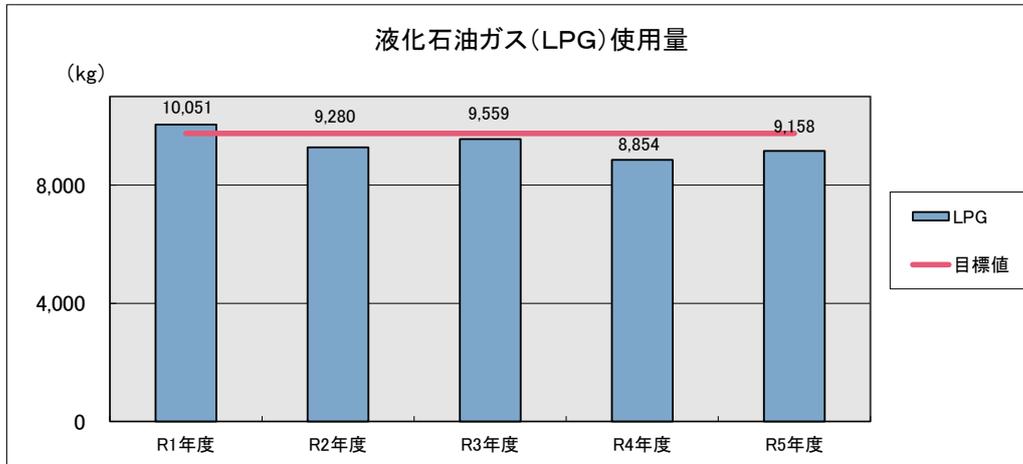


### ③液化石油ガス(LPG)使用量

目標・・・基準年から2%削減

(単位: kg)

	令和元年度 (基準年度)	R4年度	R5年度	令和4年度との 比較(増減率)	基準年度との 比較(増減率)
液化石油ガス(LPG) 使用量(kg)	10,051	8,854	9,158	3.4%	-8.9%

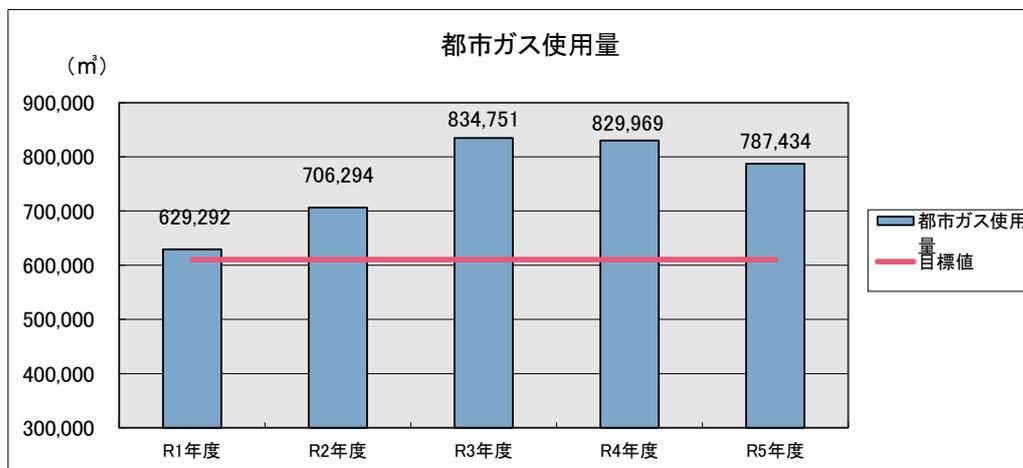


### ④都市ガス使用量

目標・・・基準年から2%削減

(単位: m<sup>3</sup>)

	令和元年度 (基準年度)	R4年度	R5年度	令和4年度との 比較(増減率)	基準年度との 比較(増減率)
都市ガス使用量(m <sup>3</sup> )	629,292	829,969	787,434	-5.1%	25.1%



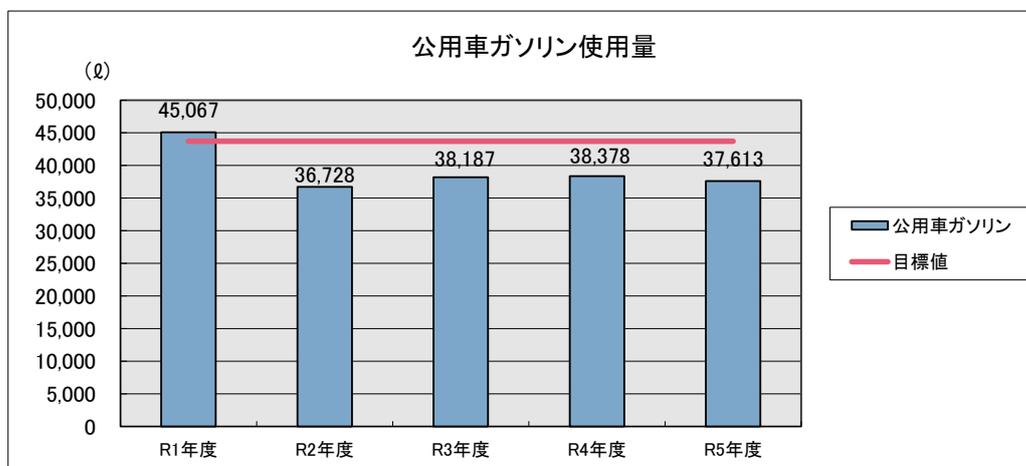
## (2) 公用車の燃料使用量

### ① 公用車ガソリン使用量

目標・・・基準年から5%削減

(単位:ℓ)

	令和元年度 (基準年度)	R4年度	R5年度	令和4年度との 比較(増減率)	基準年度との 比較(増減率)
公用車ガソリン使用量(ℓ)	45,067	38,378	37,613	-2.0%	-16.5%

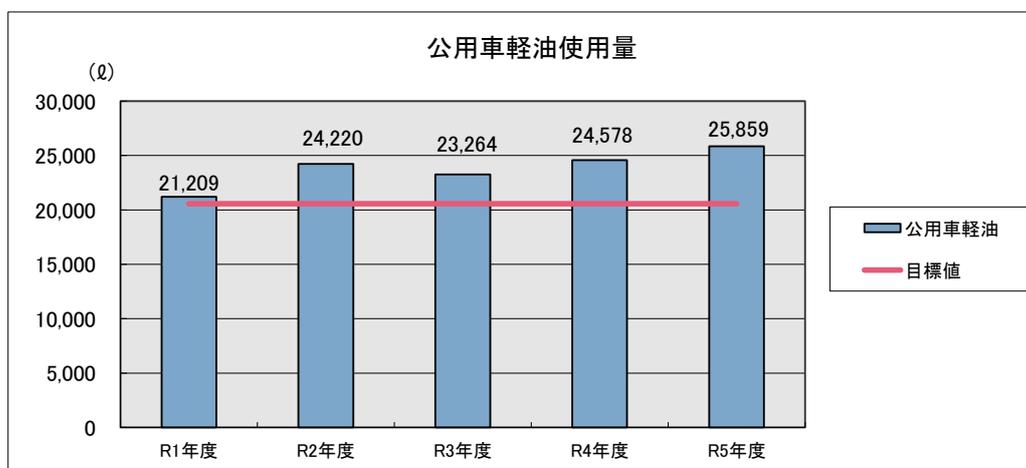


### ② 公用車軽油使用量

目標・・・基準年から5%削減

(単位:ℓ)

	令和元年度 (基準年度)	R4年度	R5年度	令和4年度との 比較(増減率)	基準年度との 比較(増減率)
公用車軽油使用量(ℓ)	21,209	24,578	25,859	5.2%	21.9%

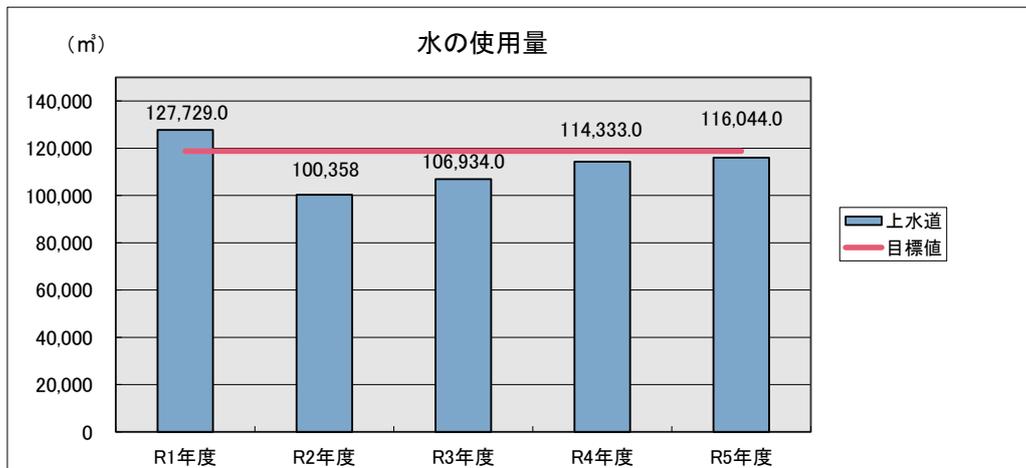


### (3)水の使用量

目標・・基準年から使用量4%削減

(単位:m<sup>3</sup>)

	令和元年度 (基準年度)	R4年度	R5年度	令和4年度との 比較(増減率)	基準年度との 比較(増減率)
上水道使用量(m <sup>3</sup> )	127,729	114,333	116,044	1.5%	-9.1%



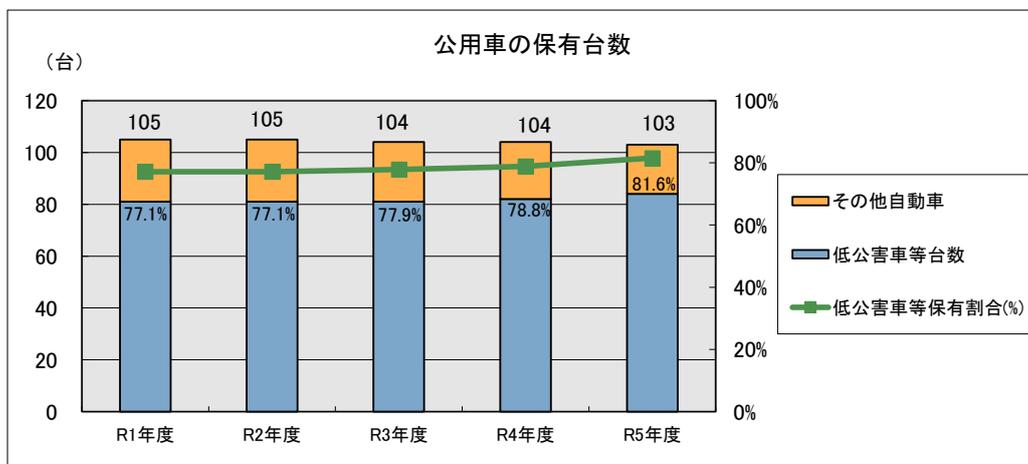
### (5)公用車の保有台数

目標・・・公用車に占める環境に配慮した公用車の割合(低公害車等保有割合)を85%以上に

(単位:%)

	令和元年度 (基準年度)	R4年度	R5年度	令和4年度との 比較(増減率)	基準年度との 比較(増減率)
低公害車等保有割合(%)	77.1%	78.8%	81.6%	2.7%	4.4%

低公害車等とは、ハイブリッド自動車、天然ガス自動車または低燃費かつ低排出ガス認定車の3種類の自動車。



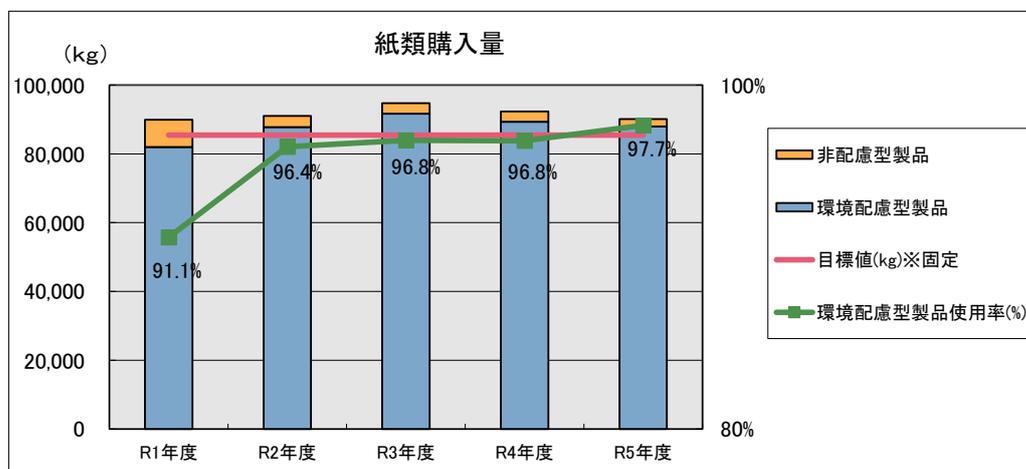
## (6)紙の購入量

目標・・・基準年から購入量5%以上削減

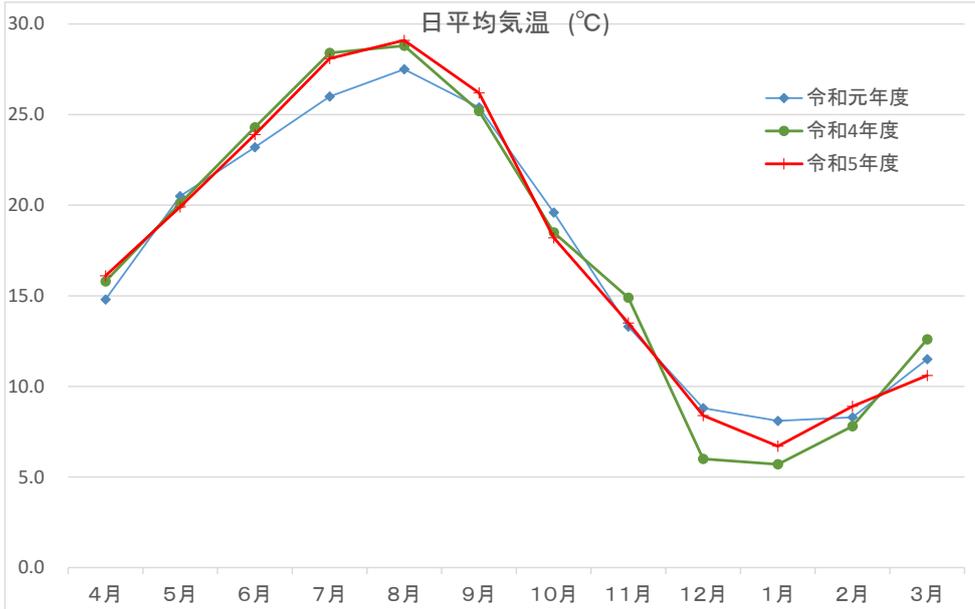
(単位:kg)

	令和元年度 (基準年度)	R4年度	R5年度	令和4年度との 比較(増減率)	基準年度との 比較(増減率)
環境配慮型製品	81,981	89,322	87,993	-1.5%	7.3%
非配慮型製品	7,961	2,989	2,110	-29.4%	-73.5%
【合計】	89,942	92,311	90,103	-2.4%	0.2%
環境配慮型製品使用率(%)	91.1%	96.8%	97.7%	0.9%	6.5%

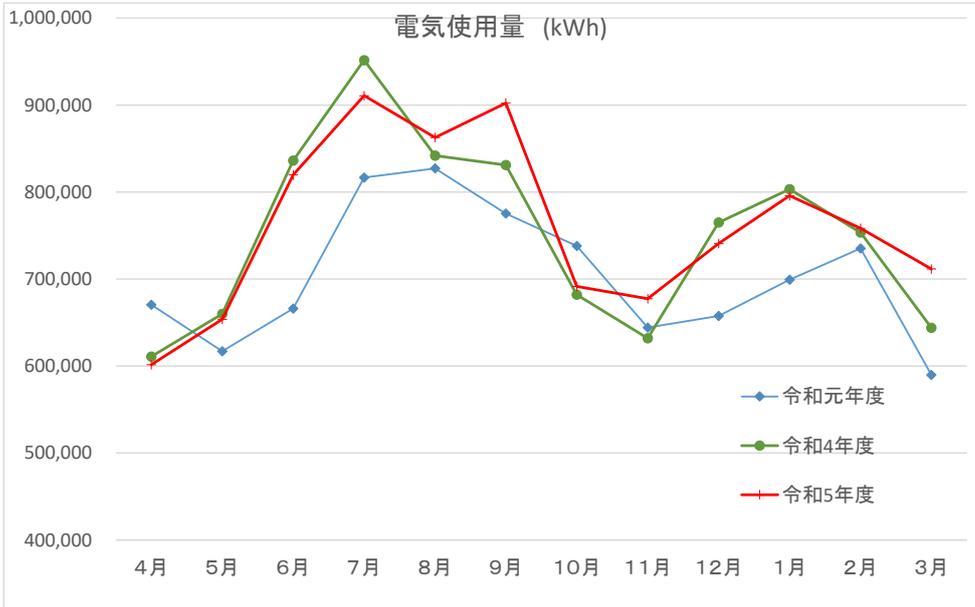
環境配慮型製品とは、国等による環境物品等の調達に関する法律(グリーン購入法)に基づき、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」に定める特定調達品目及びその判断の基準等を満たしたものの。



### ～ 参考 ～ 季節ごとの比較(気温と電気使用量)



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和元年度	14.8	20.5	23.2	26.0	27.5	25.4	19.6	13.3	8.8	8.1	8.3	11.5
令和4年度	15.8	20.1	24.3	28.4	28.8	25.2	18.5	14.9	6.0	5.7	7.8	12.6
令和5年度	16.1	19.9	23.9	28.1	29.1	26.2	18.2	13.5	8.4	6.7	8.9	10.6



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和元年度	670,325	617,002	666,055	816,568	827,090	775,344	738,100	644,103	657,521	699,279	735,266	589,776
令和4年度	610,915	659,932	836,024	951,594	841,926	830,922	681,905	631,933	764,900	803,131	753,521	643,842
令和5年度	601,580	653,732	819,811	910,789	862,646	902,179	691,392	677,282	740,833	795,923	758,362	711,529